

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371300191
法人名	株式会社ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし
訪問調査日	平成20年11月18日
評価確定日	平成20年12月13日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2371300191
法人名	株式会社ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし
所在地	名古屋市守山区竜泉寺二丁目1139番地 (電話) 052-794-2366

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月13日

【情報提供票より】(平成20年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年3月31日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,030 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 100 歳		
協力医療機関名	種田クリニック・旭労災病院・北医療生協北病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家を改造した建物で木々に囲まれた小高い場所にあり、入居者は季節を感じながら生活している。畑では四季折々の野菜や果物が収穫され皆で季節を味わい楽しんでいる。敷地は広く日光浴や散歩、茶を飲んだり法人の3つのグループホーム合同食事も行われている。訪問日には庭でお茶を楽しんでいた。職員の心得15か条があり、それを基に入居者本来の姿を大切に危険のある場合以外は手を出しすぎずあるがままに生活できるよう自由を尊重した対応がされている。高齢の方が多いが、皆食事の支度や趣味に関わり自立して自分を表現している。職員は“私が、自分の家族が認知症になったらみおつくしに入りたい、入りたくなるグループホームを”を全員のテーマとし介護に取り組んでいる。自然に触れた生活で足腰や皮膚の鍛錬、ストレスの発散をしていることで、入居者は風をひかず日々を過ごしている。外で大声を出しても他に迷惑をかけない環境の中で皆が楽しくのびのびと暮らしていることがホームの素晴らしいところであると職員は感じている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念を今までの「やすらぎ」に「地域とのふれあいを大切にごく普通の家庭生活を重視する」などを加え地域密着型の理念にした。各家庭への報告は面会の少ない家族へは連絡することに努めている。同業者との交流で知り合った仲間達と意見を交換し学んでいる。互いのホームを見学し合うことも考えている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価を難しく感じたができる範囲で記入するよう言われたのでそのように取り組んだ。前回の評価結果はカンファレンスで報告され、皆で改善に向けて話し合った。まだ検討していることもあるが善処したこともある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 事業所の活動報告や行事計画報告が主な議題になっている。メンバーから疑問や意見が出されることもあり、質問に応じたり、改善すべき点は職員で話し合い善処に努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を設置していたり面会の折に意見や苦情がないかを聞いているがほとんど出されていない。運営推進会議やその他で意見が出た時は職員がどのようにしたら良くなるかを話し合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 管理者が以前組長を務めたことから地域とのつながりが広がった。町内会の清掃活動に出席している。福祉祭りには毎年参加しており、今年は入居者がフラダンスを披露して楽しんだ。今後ホームの行事に地域の方が参加できるよう呼びかけをしていきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎ」と共に「地域とのふれあいを大切にごく普通の家庭生活と人間の尊厳を重視し自尊心を高めながら一日の大切さに感謝して心おだやかに安心して毎日を楽しく暮らす」ことを理念としている。開設当初から地域の人々との結びつきを大切に考え地域の活動に関わっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示してあり、カンファレンスで皆で話し合う機会を持ち意識づけされている。入居者には地域の中に溶け込みおだやかな生活をしていただいている。ゴミ捨ての時などに周りの人と挨拶をすることも入居者や職員の喜びになっている。手を出しすぎずありのままの姿を大切に關わっており、職員同士でも理念に沿っているか話し合うことがある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており清掃活動などに参加している。組長も務めており、地域とのつながりも広がった。福祉祭りに毎年参加しているが今年は髪飾りや衣装をつけフラダンスを入居者が披露した。入居者は楽しみその時の写真がホールに飾られている。ホームの行事には地域に積極的な呼びかけはしていないが参加を歓迎しており、今後は呼びかけについても検討していきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価するのは難しく職員の立場では分からない項目もあったができる範囲で記入するよう管理者から話された。評価結果はカンファレンスで報告し改善に向け話し合っている。評価を受けることで良かれと思って行なっていることが一方的であったり、今まで見えなかったことが見えてくるなどが意識でき、今後のサービスにつながり参考になった。地域との連携や食事前の手洗いなど改善されたこともあるが、現在も改善に向け検討している問題もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1度開かれ、町内会長、民生委員、家族、主治医がメンバーである。事業所の活動報告や行事計画、報告が主な議題になっている。メンバーから疑問や意見が出された時は素直に受け止め、改善にむけ努めている。</p>		<p>外部評価の結果報告はされていないが、今後は報告し、メンバーからの意見も聞かれることに期待したい。古くからの家族に限らず、全家族に運営推進会議開催の案内をし、会議の報告もすることにより、一層ホームへの関心が深まることが期待される。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居者の受け入れ相談の際や生活保護の担当者とはホームの話をする機会はある。地域包括支援センターからは認知症についての講習会講師依頼を受けた。社会福祉協議会の福祉祭りでは、多くの人にホームを理解してもらうためにポスターを展示した。</p>		<p>事業所の運営や現場の実情を積極的に伝える機会があまりないが、今後機会をつくり実態を共有し、課題があった時には協議し、共に取り組む関係をつくられていくことに期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の近況や家族へのお願い、今後の行動予定はふれあい通信で知らせている。面会の際にも報告している。面会の少ない家族へは急ぎの連絡は電話をしているがつかないこともある。家族へホームに関心を持っていただくため、今は模索中である。ホームでは家族からお金を預からないシステムで必要時の支払いは立替えて月毎の請求時に領収書を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているがほとんど出されない。面会の折にも意見や苦情がないか聞いているがあまり出ない。運営推進会議の折、家族から出た意見は参考にして反映させている。家族より支援方法について意見が出され職員で話し合った。入居者本人の行動であっても、他の人から見た場合の受け止め方を認識し、よりよい支援方法について取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の配置転換は入居者の動揺を防ぐためほとんどない。離職の場合は、静かに去りたいという職員が多く、その希望を入れ辞めてから報告している。運営推進会議で職員の異動や退職は報告している。入居者の状況で離職によるダメージは今はない。新しい職員が入った時は皆で大歓迎している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修の受講を希望する職員には、勤務を交替してでも参加できるように促している。名古屋市の研修やセミナー参加も奨励し勤務の交替に対応している。出席した時はカンファレンスで報告している。法人内に事業部会があり、主任クラスが集まり意見交換をし学び合っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会に参加し、他のホームと交流し学んでいる。管理者は研修で知り合ったグループホームの仲間と連絡をとり合い情報を聞いたり相談をしたり意見交換をしている。そのうちに互いのホームを見学し合って質の向上に努めたいと話合っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるようホームで1日か半日生活し体験していただいている。本人が来れず家族が見学に来る場合もあるが、本人が来れない時は担当の職員が自宅へ行きグループホームでの生活が可能かどうかを見に行っている。入居する時は自宅で使っていた馴染みのものを持ってきてもらい、今までのように落ち着ける場にするよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように一緒に生活していても実際には家族ではないため、一線画することが大切と考えている。喜怒哀楽を共にし共感できるよう寄り添うことに心がけている。料理など家事を教えてもらったり、人生について学ぶこともある。百人一首や諺、和歌、短歌など入居者の得意なことを教えてもらうことも多く職員も楽しんでいる。職員が失敗した時は入居者が慰めてくれたり、やさしい言葉ももらい心が和むことがよくある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いや意向は傾聴して把握している。普段の様子から関心のあることはその人らしい生活ができるように意向に沿うよう配慮している。把握が困難な人には表情やしぐさなどで察し関わっている。回想法を取り入れ、個々の生活歴の中でやっていた好きなことを思い出してもらいそれに添うよう努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成に当たっては初回面接により家族、本人の希望を聞き、全職員参加のカンファレンスで職員の意見、アイデアを出し合っている。担当者は入居者のできることを見つけ職員と一緒に取り組み、意欲の低下防止に努めるなど本人本位の計画を作成している。家族の来訪時に介護計画の説明をしている。</p>		<p>介護計画は家族の来訪時に説明しているが、来訪のない家族には説明されていない。管理者はすべての家族への説明は必要なことであり、方法について検討したいと考えていることから、実施に期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは基本的には6カ月に1度行う。カンファレンスは毎月行う。カンファレンスシートを見直して問題点をわかりやすくし、具体的な対応策や取り組んだ結果をまとめて見直しにつなげている。体調変化などあった場合は期間を待たず早急に医療機関や関係者、家族と連絡、話し合っ見直している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の事情により、ほとんどの入居者の通院の付き添いを行っている。医療連携体制を活かして入居者の負担となる受診や入院を回避している。毎週訪問看護がある。まだ利用者はいないがデイサービスの受け入れの準備をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医から紹介状をもらい契約医療機関が入居者の主治医となり、2週間に1度往診をする。家族付き添いの通院の際は報告をしてもらい状況を把握している。希望者にはマッサージの出張がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる指針を設け、入居時に説明して同意を得ている。重度化した場合は医療機関や他施設と連携し早くから家族と話し合っている。終末期は家族と話しあった結果として入院するケースが多い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出、書類は職員以外の目に触れない場所に置いて外に持ち出さないなど、個人情報の取り扱いには十分注意している。親しさの中にも誇りを傷つけるような言葉かけがないよう気をつけ、入室の際には声かけをするなどプライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は習慣で起きる時間が決まっている人もいるが、無理に起こさず自分で起きるに任せている。夜は時間になると皆自分で眠りにについている。食事その時により食べ方の違う人もいるが、できるだけせかさず慌てずその人のペースに合わせている。何年も日記をつけている方や食事準備を手伝う方などその人らしい生活を楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けはできる人は職員と一緒にいる。入居者の好みを献立に取り入れたり、買い物を楽しみながら好きなメニューを考えることもある。ホームで採れた野菜や果物を食べたりオープンレストランとして庭で食事をすることも。食事は職員と一緒に会話をしながら和やかに行う。時には外出に出かける。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は日曜日以外は毎日立てている。入居者は概ね2~3日に1度入浴しているが、入りたい人は毎日入ることができる。お風呂嫌いな人はいないが、逆に好きですぐに入浴したいという方もおり、職員で話し合い対応している。入浴剤を使い、温泉に入ろうと誘うこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる人には食事の準備や調理、洗濯物干しなどを手伝ってもらい、積極的な人は来訪者に丁寧に挨拶をしたり、毎日日記をつけている人は日めくりをめくるなど、その人の個性や能力に合わせた役割がある。レクリエーションでは歌やトランプなどが人気だがことに百人一首はよく覚えていて、上の句が出ると下の句がさっと出てくる。誕生会や収穫祭、バーベキューなどの行事がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	木々に囲まれた広い敷地内には畑や果樹があり戸外へ出るだけでも気分転換になり、散歩をしたりテーブルを出してお茶を飲んだり歌を歌ったりしている。2~3日に1度は職員と一緒にスーパーや大型店に食材や雑貨などの買い物に出かける。定期的ではないが車で近くの公園、小幡緑地、東谷山、定光寺、植物園に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、居室に鍵はない。出入口は2箇所あるが林の中の一軒家のような環境にあるので安全面を考えて、時間帯によって玄関には鍵をかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署の協力を得て自分で動ける入居者も参加して行っている。避難経路の確保と確認、消火器の使い方、動けない人の搬出方法について研修した。町内会に防火防災計画書を提出している。災害時の備蓄もしており、食品の賞味期限の確認をしている。敷地内に飲用水のタンクを設置しており毎日入れ替えをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が交代で作り栄養バランスを考え入居者の好みも取り入れるよう工夫している。カロリー計算はしていないが体重測定や血液検査の結果で体調管理をしている。その人の状態に合わせ刻み食やおかゆにする。食事量、水分摂取量を記録し、便秘対策として野菜を多く取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には入居者や職員の写真や手作りの作品が飾られている。ソファやいすを置いてくつろげるようにしている。民家改造のためカーテンで目隠しや保温の工夫をしている。照明や換気に気をつけ暖房時には加湿器を用いる。居間のテレビでは入居者の好きな音楽番組のビデオや家族の持ってきた入居者お気に入りのビデオを流している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスなどの家具が持ち込まれ人形や家族の写真、お気に入りの昔のスターの写真などが飾られている。着物が好きな人はたくさんの着物をしまいこんでいて、時々取りだしてみても楽しんでいる。編み物が好きだった人は毛糸や編み物道具を引き出しの中にしまっていて、使わなくてもそれが本人の安心につながっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。